平成29年度　地域ケア会議まとめ　　北区大淀地域包括支援センター

1．開催状況

開催回数	31回

うち 実人数　26人　※複数回実施5ケース

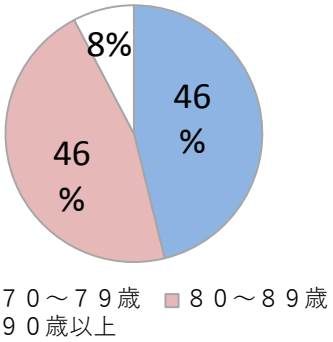
2．対象者の状況

①性別

男性	8
女性	18

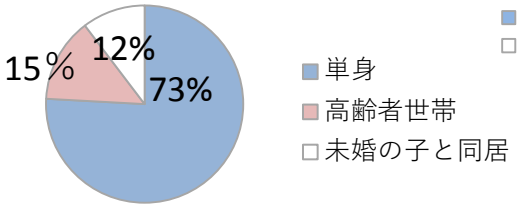
②対象者年齢

７０～７９	12
８０～８９	12
９０歳以上	2



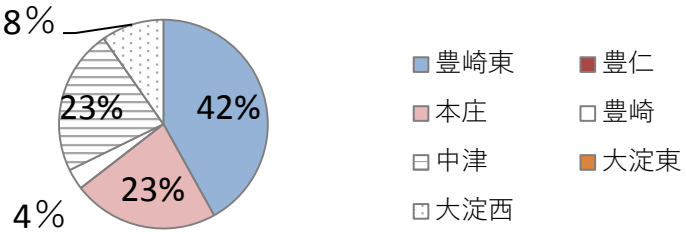
③対象者世帯状況

単身	19
高齢者世帯	4
未婚の子と同居	3



④地域別

豊崎東	11
豊仁	0
本庄	6
豊崎	1
中津	6
大淀東	0
大淀西	2

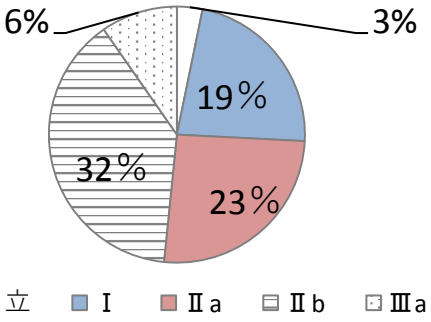


⑤要介護度

未申請	6
非該当	
要支援１	1
要支援２	5
要介護１	10
要介護２	2
要介護３	2
要介護４	
要介護５	

⑥認知症日常生活自立度

なし	1
Ⅰ	6
Ⅱａ	7
Ⅱｂ	10
Ⅲａ	2
Ⅲｂ	
Ⅳ	
Ｍ	



⑦会議出席機関

地域包括支援センター	31	本人	
ブランチ	13	近隣住民	5
ケアマネジャー	20	CSW	10
介護サービス事業所	13	区役所	13
民生委員	9	医療機関	3
町会	4	警察	1
家族	4	その他	9機関

➡ オレンジチーム（4）
救護施設大淀寮（5）
後見人（4）
地域福祉CO（7）
あんさぽ（5）
在宅CO（3）
有償ボランティア（1）
よりそいサポート（1）
就労支援センター（1）

⑧困難事例の要因（重複あり）

本人の要因		家族などの要因		その他の要因	
独居	21	家族機能の低下（関係希薄、非協力）	5	近隣住民との関係が希薄	7
金銭管理ができない（滞納、不適切な利用）	12	代替えの介護者の不在	7	近隣からの排除	
認知症	20	家族の経済力不足	1	近隣トラブル	6
性格・気質	4	家族が高齢・要介護状態	5	地域住民による虐待の疑い	2
精神疾患（病識の欠如、治療の放置）	11	複雑な家族関係（共依存。虐待等）	2		
共依存関係		制度の無理解（介入拒否）	1		
加齢による生活能力の低下	4	希薄な家族関係（キーパーソン不在、身寄りなしなど）	3		
制度の無理解（介入拒否）	8	支援が必要な家族（高齢以外）がいる	2		
経済困窮	7	家族の精神疾患（病識の欠如、治療の放置）	1		
要介護状態	8	介護負担の増大	5		
金銭トラブル	3				

３．地域ケア会議の傾向について

世帯状況は「単身世帯」が多く、例年は、要介護認定者が多く見られる傾向にあったが、今年度は「未申請者、要支援認定者、介護保険に繋がっていないケース」が多く見られ、自立度は高いが個人要因が原因で、支援開始時から関係者と情報共有、支援方針の策定、役割分担を目的に開催したケースが多かった。地域別に関しては、豊崎東、中津、本庄と「総合相談件数が多い地域に集中」しており、例年と同様の結果であった。

●本人の要因からみた傾向について

・独居や認知症　➡ケアマネージャー、オレンジチーム、地域も含めて、見守り支援について検討。
　　同居する家族の介護負担が増大し、結果として、施設入所の方向で支援する傾向にあった。
・金銭管理不能、金銭トラブル(消費者金融からの多額の借金）➡成年後見制度やあんしんさぽーとへつないだ。

●家族など要因からみた傾向について

・家族関係の希薄化➡成年後見制度につなげる要因にもなった。
・介護の協力者が遠方・協力者不在➡ケアマネ、事業所、地域と見守りが必要であった。
・家族が高齢・要介護状態➡老々介護、認認介護による介護負担の増大がみられた。
・支援拒否により重篤化➡施設入所せざるを得ないケースもあった。
・本人が認知症、家族に精神疾患など複合的な課題あり➡介入も難しく、多職種連携が欠かせなかった。

●その他の要因からみた傾向について

・近隣住民との関係が希薄化➡独居、認知症、精神疾患が起因。会議を通して、民生委員、町会関係者、救護施設大淀寮、ＣＳＷの協力のもと、見守り活動を展開。
・近隣トラブル➡排除の方向を防ぐため、病状の理解と支援方針の策定の為、医師に入っていただくケースがあった。結果、地域の方々に病状の理解につなげ、トラブルが減っていくこととなった。この点から、医師にも積極的に地域ケア会議に介入してもらうことで、医療と介護の連携することが出来、その後の近隣トラブルの必要性を支援者が感じることに繋がった。
・虐待の疑い➡ケースにより、会議に警察にも参加していただき、情報交換を行う事ができた。今後の連携について考えていくことができたことは、有意義であった。

４．地域ケア会議より見えてきた課題

・独居、認知症、精神疾患に起因しているケース➡金銭管理ができないことで、税金、家賃を滞納、不透明な借金を抱えていることが多く、成年後見制度、あんしんサポートに繋ぐことが増えている。
・相談が上がってくるときは、重篤化している傾向➡早期対応が求められることが多い。特に生活保護受給者の場合においては、CWより、早期支援につなげていけるように、日々の連携が必要
・家族が高齢、要介護のケース➡一方が支援に繋がっているケースについては、介入が行えるが、両方が介入拒否となると、中々支援が困難な状況。今年度は家族(子)に支援が必要なケースについては、少ない傾向にはあったが、家族支援の在り方について、家族支援に関われる機関(障がい関係等)との連携は引き続き重要。
・多職種連携➡医師、警察が会議に出席していただいたことは有効性を感じた。今後も医師、警察など、ケースに応じて、関係機関の参加を求めていきたい。
・地域性の面では、例年通りの傾向➡開催されていない地域でも、高齢者は増えてきており、個々の相談が徐々に上がっている。重篤化する前に相談が上がってくるよう、地域、ブランチとの啓発活動に力を入れていく。

５．平成２９年度　総合相談より見えてきた課題について

・町会未加入者への支援、アプローチ→独居、身寄り無しのケースが増えており、地域とのつながりを持っていない方が多くおられる。また、新たに建設が進んでいる高層マンションへ転入してくる方への受け皿も必要
・孤独死の増加→市営住宅、UR賃貸では、増加傾向にある状況。
・北区内７病院との連携→医療関係者からの相談が増えているが、退院時支援から関われるよう包括の役割を周知する必要あり。
・消費者被害への対策→区役所職員の名を不審者が出入りしてる、多額の振り込め詐欺などの被害に遭われていることが警察より報告されていることから、被害防止策を考えていく必要性を感じている。
・多様な福祉にニーズにこたえていくシステム作り→家族支援など、多職種で関わりを持つ必要性がある。

６．課題解決のために取り組んでいること、これからの取り組みや必要なネットワーク

◎課題解決のために取り組んでいること

・啓発活動の展開。家族介護支援事業や食事サービスなどを活用し、地域ニーズに応じた催し物を開催することができた。
　【大淀西、大淀東】福祉機器展、薬剤師会の講座　【中津】認知症講演会　【豊崎】徘徊模擬訓練　【本庄】薬剤師会の講座
　【豊仁】介護サービス事業所の紹介、グループホーム職員による認知症ミニ講座　【豊崎東】タオル体操教室、介護セミナー
　上記の催し物を開催することにより、地域性を理解し、継続性をもつことができつつある。
　次年度に向けては、より地域に密着した啓発活動を実施していきたい。
・小地域ケア会議の開催が例年と一緒になっているため、別の圏域でも開催できるように活動を展開していきたい。
・多種多様な機関との連携については、地域ケア会議を行い、連携の強化に努めていくことが出来ている。

◎これからの取り組みや必要なネットワーク

・孤独死のケースが増えていることから、ライフライン事業を担っている機関との連携、啓発活動が必要。
・北区内7病院との連携について、各々の病院相談員からの相談は増えている傾向にある。今後、退院時支援に早期に関われるよう、包括の役割を理解してもらうためにも連携は必要。
・多様な福祉ニーズに応えていくためのシステム作りとして、北区内のたくさんの社会資源に対して、個々のケース以外にも、組織として、横のつながりを持てるように様々な連絡会を通じて、繋がりを構築していく必要がある。